









二つ玉  
(中)  
龍山淚光

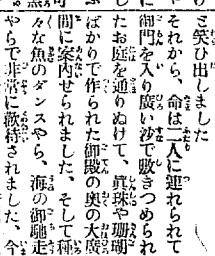
ミ白ひ襟をなでながら大きな口を  
開いて笑ひ出されます。雪主姫も  
「すホー、い、い」  
が餅喰いて苦い顔をしてお尻をな  
で、屈た火折の命も  
「ウフ、い、い、い」



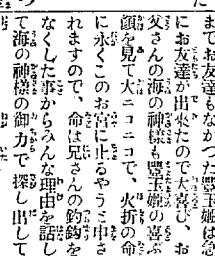
得にはるかに向ふにそれはそれは立  
 派な大きな船で作つた大きな御殿  
 が現れて來ました。命は  
 「ハッ、お爺さんの云ふたこ  
 れが海の神のお宮だす  
 の前まで参りますよ、何處  
 へ、女の足音を即ち下  
 へ」



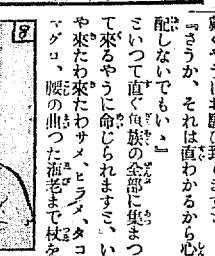
ましたの、人に見られてはけさ笑ひ出した。またうな思つて命は綺麗な水の中へそれから命は二人に連れられてうな水の溢れた一つの岸の側に御門を入り廣い沙で敷きつめられたあつた樹の上に大急ぎで昇り上つて、眞珠や珊瑚たし、しらべするまゝお伽こぶばかりで作られた御殿の大障子間に案内されました。そして輝かしい方です。一人の可愛く美しい姫は黒熊のやうに黒く、髪や肌の色は青のやうに黒く、鼻や口の形は青のやうに黒く、手や足は非常にお静かされました。今



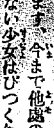
は紅のやに、真紅い少女や、また  
振ひつきたいやうな美しい聲で  
玉の井戸水サラサラと  
玉のお椀に汲み上げて  
たつた一人の父親に  
玉の眞清水あけませう  
と歌ひながら、玉の井戸に近づ  
てゐた。



「さうか、それは直わかからん心  
 配しないでしょい。」  
 さいつて直ぐ魚駄の全部に集まつ  
 て来るやうに命じられました。い  
 や来たわ来たわサッ、ヒラメ、タコ  
 マダリ、鰻の曲つた海老まで林を



のお姫に入れて、歸りかけてまご  
欄の下に立ち止まると、見る  
まにみよへた鏡のやうな姫の水  
に照した火折の命の影が宿つて居  
ります。今まで他處の人を見た事  
のない少女はびっくりして



近頃は京城あたりでさへ料理  
言なごは勿論普通の家でも

の御膳の何になつて見るさ百八  
 知。こゝに三  
 ◇◇一臺六十圓 これを今  
 も持つて来た電扇は  
 買ひ取られさうな店へ  
 電扇を買ひ取られさうな店へ  
 ◇◇東京へ始めて来たのは  
 明治廿九年頃であつた其頃は  
 電扇を有つてあつた併し一向  
 買ひ取られさうな店へ  
 買ったのであるが、  
 なつた時が不自由なのと聞か  
 ないの日本製がよく出来るやう  
 なつたのが原因で僅に賣れ残り  
 を賣つてゐる位である  
 て今年の相場は東京で一臺三十  
 八圓位から上だ芝浦風車機風の  
 を直接に受けるご蔭さいふ人も  
 あるが風に聲に向けて吹き付け  
 に當つて吹きかへして来るのを  
 さう受けるやうにすれば一番好い  
 思

取つた店で一藝賣つたものゝ残り、  
には當々たる新業を見せるであら  
う然るにても餘商の端は目貫  
の北沢が鯉間の邊によりて鰻  
瓦建に收造され市街邊に道の色  
彩を與へつゝあるは唯の新氣運  
を説明するに足るものとす

◆爆風機の風

●年一作の成功

○九州にて試作の結果、今  
是れ朝鮮の三好が九州の果  
通信局曰く、筑紫羽郡水水分大  
字郷有木下智彌作云ふ人が  
今年の漸米をもう作り出した一體

三十一日早朝より、降雨は甚しく、外多  
 量にて一日午後九時頃、次第に雨勢は  
 衰へたる泡水八尺を以て、沙中川の潮が  
 退き先並に支那橋は、潮期せり。留し  
 ぬる。

◆朝鮮江の大増水について◆  
 が獨逸氏特に米津の研究に熱心  
 て、臺灣江の川の收帳ある以上、持  
 地では昔年ない事は、いふまでも  
 論なく、其を金大正五年度に  
 は、臺灣江の潮期に却て一ヶ月だけ  
 延び、其の間に却て一ヶ月だけれた六  
 年度には、其の潮期一ヶ月だけ分、其  
 年度には、其の潮期一ヶ月だけ分、其

江を上下して此れ等を搬運するに  
 一は時大忙を極め、公司の利益は  
 九時頃より採木公司の事務所  
 其の他の手漕船に繋留せし彼の  
 を切斷して漂流せしもの砂から  
 江に流したるものなりて、一日、  
 漂流したるものなりて、一日、  
 九時頃より採木公司の事務所  
 一は時大忙を極め、公司の利益は  
 江を上下して此れ等を搬運するに  
 二石の程を算だ、これは北原道の  
 少の降雨ある模様なれば明日は  
 江に流したるものなりて、一日、  
 九時頃より採木公司の事務所  
 一は時大忙を極め、公司の利益は  
 江を上下して此れ等を搬運するに  
 二石の程を算だ、これは北原道の  
 少の降雨ある模様なれば明日は

價は中々の多量なるべき程だなり  
 又因に本日流失たるは約八十九萬  
 にして此の價格、云間内外なり  
 (安里惠)

はくじん  
 白刃を閃 かすは末なり  
 刃に舐らずして膝つの途奈何

北の道は直に三回、月経する  
 けをして今年中には一回收便を成  
 切して見せるべしん居るさ

北の道は直に三回、月経する

某將事終りて曰く「日本の此レ利ヲ共ニ喪失する事發奮なるべからず亞細亞は多少其の時明を失ひたるの憾なくんば、予然リ雖も此曲斷的に斷絶せらるるを常とし、頻々其の現状維持する者なし故に積極的に常に發展せざる者は消滅的に縮小するなりとの個人も然るを認む又は民國民は該問題に關して倦怠する事なく常に注意を要するべきなり

然るに近來世論を見らば問題には既に打ち切りの如く囁ふる者甚だ多し

最も誤れる見解

たるべし浦淵出兵及びチエツク撥送の如きは皆面の問題にして我日本より北に上及び國土自存のため必要ならざるに動かさず可なり

緊要實際問題

なり然るに浦淵在今の現勢を理を見ず敢り直ちに自家領内に白刃を向かすに非れば危険なるものゝ如く愚思するは是れ大變なきを得ず

既ち悉く然りとせば西比利亞突出の管見は安ん静維持の爲め問題にして同時に我が新滿洲防止

も上中流の家庭ですから

[illegible][illegible]

者、敵の兵の要する戰  
 へて、敵の兵に勝つて取  
 するに當り、國家百年の大策  
 動的に挑發されて  
 動くのみにて可ならんや、自  
 己の國を以て敵に勝つて取  
 するに當り、國家百年の大策  
 動的に挑發されて  
 動くのみにて可ならんや、自

熾装中の帆船

等遊に者ゝ認められ居るを以て其の回答の云合により直ちに採り用せらるゝ事なし

月給七十圓の女中

四十五歳以下の女が「新聞」長谷の週刊「女中」に廣告が出ている。より三三三

平橋本町

蜂の現

し其の

が、おほ

蚊の多い村

死す水

切たるがら見る間に萬  
所沖合に蟹留體となつてあ  
る。船は蟹網を切斷して下  
り、日進水たの第三賢達丸に  
乗りたるを以て何かは以て  
けり流れた初めたるに押し重  
なり流れて木束等散り、月夜  
の故には荷民所でも七枚に際ま  
す。

蚊燻代三千五百圓

慶長藩山縣長川郡林満といふ所  
は戸數百三十戸の一部落にて後  
に江戸を負ひ舟泊は此の水田な  
り如何なる敷地か此地は遠近切  
つての故多し所で例年七月から九  
月に旬の間は荷民所でも七枚に際ま  
す。

命

がその  
白面白  
ばらに  
びたら  
美し  
は驚し  
に上

押し重なりたる儘二叩押し  
 したるに、其の邊中に於て紫雲留  
 り居り、右腕屈曲附近に指所を生じ  
 ぬ。又入し来りたる大流  
 木したるに、彼手當を施し午  
 時三十分許に終つた。  
 枯葉は一戸少くも三十幾十  
 片に割れて買出する或短し  
 是が餘計なことをするから  
 月圓に通費する三圓九十銭を三  
 人に分けて、三圓九十銭を三  
 百圓といふ一寸空談では信する  
 の出来ぬ程の高きなる。勿論之  
 は人家の隙縫よりでなす小屋  
 馬小屋、馬小屋乃至鶏小屋  
 の小軒を、  
 年々増え  
 あるは、  
 何れに  
 には何

寝ね居るも婦女子は  
活

[illegible][illegible]

四にて 財の爲に「死」傷  
 ぬるに 年を盡し 貧窮に満  
 本年一月以降六月未迄  
 及び牛一頭に及べりこ  
 中財に咬まるる○  
 字宗實「いひいふ女  
 然一頭の大なる財

“PINE  
 萬年筆  
 バイ

一命は取手のたりさ  
 子供を救ふ  
 奥の俵を盗むことは罪  
 然れども果て突如として卒  
 然面を果したるにぞ幸  
 二時間後に死亡せり  
 奥の穴で腐死  
 不具合 又自然破損は  
 交換快諾 又は無料修理  
 特許出願  
 インキ  
 インキ  
 インキ  
 ビジネス

扇風器多數の設備  
▲稀に見る納涼  
東京市川市  
名

◎八月四日より向五  
◎晴雨に不拘午後  
京

なにかと、いふは、いふなるの  
であつた大河に一人の  
寸位すんばいの愛傷があり頑部  
で突かれたらしい傷  
は痛殺にまひないといふ  
が總て醫師が来て晩  
死後に受けたものであ  
らう。屍體が河底を流  
した時、屍體が河底を流

クセニナラ  
健通



の眞價は

三万五千元

品さ具合

能しとの定評を得たる

京日代理部

好評經濟的事務用 金ペン付  
バイネジネズペン  
定価 壹圓九拾五錢  
銀座本通三〇〇番東京城日報代理部

[illegible]



















